

生活支援部の輪

生活支援部には利用者さんの豊かな生活を実現することを一番の目標に掲げ、様々な役割を担う職員が働いています。この度は、生活支援部を代表する4名の職員が日々働いていく上での、やりがいや意気込みについて皆様へお伝えしていきたいと思ひます。

私たちの支援や工夫で利用者さんの可能性が広がる

サービス管理責任者

谷川智計



今年で入職して24年目になりました。現在は生活支援部でサービス管理責任者として業務に従事しています。ここまで長く働き続けられている理由としては、私たちの支援や工夫次第で利用者さんの可能性が広がることです。利用者さんそれぞれの「強み」を伸ばすための支援をすることで出来なかったことが出来るようになったり、生活の質の向上や身体機能の維持などに繋がっている時は、とても嬉しく感じています。人と関わる仕事には明確な正解がないので、あの時の自分の関わり方は良かったのか？こうすれば良かったのか？

利用者さんとの時間を大切にすること

生活支援員

渡邊知美



支援員として働かせて頂くようになり10年目を迎えました。業務内容としては、食事・歯磨き・入浴・トイレ・更衣など、一般的な介助を主としています。利用者さんは皆、性格はもろろんのこと、障害特性や抱えている疾患、持病などは様々です。故に、利用者さん一人ひとりに合った支援が必要なのだと考えています。その中で私が心掛けていることは、「その人との時間を大切にすること」です。利用者さんの中には、発語がない方もおられます。自分の思いが相手に伝わらないもどかしさやつらさは殆どの方が経験したことがあるのではないのでしょうか。発語がない方や上手く言葉に出来ない方は、それが当たり前なのかもしれ

ではないかと振り返る毎日です。日々そのようなことを考え、試行錯誤を繰り返しながら、自分自身を成長させていたのだと感謝しています。

サービス管理責任者として、まだまだ未熟な所が多いですが、ご本人の希望される生活を尊重しながら、楽しく安心して過ごしていただけるような環境作りを目指して一緒に頑張っていきたいと思ひます。



れません。しかし、私は「自分の気持ちや相手に伝わらないこと」を当たり前だと思つて欲しくはありません。また、ここ数年は特にコロナ禍により生活に制限が掛けられてしまふこともあり、集団生活の中で個々の要望全てを叶えることが出来ないのも現状です。だからこそ、何気ない会話や表情から相手の思いをくみ取れるように、どうしたら安心してもらえるのか、を考えています。「話を聞いてもらえる」「言えなくても分かってくれる」、そう感じて安心してもらえる、そんな存在になれるように今後も利用者さんとの時間を大切にしていきたいです。

お母さんの味・家庭の味を大切に献立を作成

栄養士兼調理員

桂 正行



生活支援センターの厨房で栄養士兼調理員をしている桂です。厨房の主な業務は、利用者さんの食事の準備や提供が中心となっています。日々の業務の中で特に気を配っている点は、料理の味付けはもろろんのこと、それ以上に衛生面に注意を払っています。当施設では、一回の食事で約50名分の提供があります。私たちが準備している食事を、利用者みなさんに安心して召し上がって頂き、そしてその上で「おいしい」と言つて頂けるように厨房スタッフ全員で協力しながら取り組んでいます。

まずは相手の話を聴くことを心掛けています

主任生活支援員

嶋田恵子



主任となり早3年が経ちました。コロナ禍ということもあり、きちんと挨拶が出来ていませんでしたが、嶋田と申します。主任になったことで今まで以上に自分の発言や行動に気を付けて、業務を行うよう心掛けるようになりました。加古川はぐるま福祉会で働くようになり、今年で23年目になりましたが、日々他の職員や利用者さんから学ぶこと、新たな一面を発見することの方が多ひです。先輩職員と

当施設では食事を作る上で、母の味・家庭の味を大事にすることを理念としています。これはご家族の元を離れて、当施設で暮らす利用者さんに少しでもご家庭の雰囲気を感じて頂きたいとの思いからきています。ですから日々のメニューの中には、ご家庭で召し上がられる物を中心に献立を作成しています。これからは、利用者さんが健康的な生活を送つて頂けるように、食事の面からの一助となれば幸いです。



して利用者さんの支援や対応等のアドバイスを求められることもありますが、自分が支援させて頂いてきたことが利用者さんにとってどうだったのか未だに分かりません。利用者さんと長く一緒に過ごさせてもらったこと、この方は〇〇の方という思い込みで支援してしまつていくこともあります。

利用者さんも高齢化が進み、出来ていたことも出来なくなつていく不安な気持ちに寄り添いながら、利用者さんの「今」をきちんと見極めて対応していくことを今後も心掛けて支援していきたいと思ひます。主任という責任ある立場なので重圧はありますが、まずは自分自身が話を聴くことを心掛け、他の職員の様々な意見や思いをくみ取り、利用者さんにとってよりよい充実した暮らしに繋げられるような話し合いが出来るチーム作りに努めてまいります。

